

○次の の中の言葉を、漢字を使って書きましょう。
学校に関する言葉

- ① の時間に本を よむ。
- ② さんすう の けいさん。
- ③ りか のテストで ひやくてん をとる。
- ④ しゃかいが 見学に行く。
- ⑤ おんがくしつ のピアノ。
- ⑥ すがこうさく が得意だ。

きせつを表す言葉

- ⑦ あたたかい はる の風。
 - ⑧ なつ 休みに、海に行く。
 - ⑨ あき にとれるくだもの 。
 - ⑩ さむい ふゆ が来る。
- 時を表す言葉
- ⑪ あさ 早く起きる。
 - ⑫ ひる ごはんを食べる。
 - ⑬ よる になる。



ゆうすげ村の小さな旅館



ゆうすげ村の小さな旅館に、ある日、一人の女の子がたずねてきました。

三 物語のあらすじを
よんでください。
●通画のつりかわりに気をつけて読み
あらすじをまよめましょう。

ゆうすげ村の小さな旅館

茂市 久美子 文
菊池 恭子 絵

わか葉のきせつでした。ゆうすげ村のゆうすげ旅館では、山に林道を通す工事の人たちがとまりに来て、ひさしぶりに、六人ものたいぎいのお客さんがありました。ひとりて旅館を切りもりしているつぼみさんは、朝早くから夜おそくまで息をつくひまありませんでした。
わかいころなら、お客さんの六人ぐらい、何日とまってもへいきでした。でも、年のせいでしょうか。一週間もすると、ふとんを上げたり、おせんを持って階段を上ったりするのが、つらくなってきたのです。
ある日、つぼみさんは、夕飯の買い物から帰るとちゅう、重い買い物



ぶくろをちよつとの間道ばたに下ろして、ついひとり言を言いました。
「せめて、今とまっているお客さんたちが帰るまで、だれか、てつだつてくれる人がいないかしら……」
そのよく朝のことです。つぼみさんが、朝ご飯のかたづけをしていると、台所に、色白のぼちやりとしたむすめが、何本ものダイコンを入れたかごを持って、やってきました。
「おはようございます。わたし、美月ついでいいです。おてつだいに来ましたか。」
「えっ？」
つぼみさんが、きよんとしていると、むすめは、親しげにわらいかけました。
「ほら、きのうの午後、だれかてつだつてくれる人がいないかしらって、言ってたでしょ。」



(へんねえ。買い物帰りの、だれにも会わなかったけど……。)
 つぼみさんは、首をかしげました。
 「わたし、こちらの畑をかりてる宇佐見のむすめです。父さんが、よろしくって言ってました。これ、あの畑で作ったウサギダイコンです。」
 むすめは、持ってきたダイコンを、つぼみさんにさし出しました。
 ゆうすげ旅館では、山の中に小さな畑を持っていました。でも、つぼみさんのだんなさんがなくなった後、畑は、たがやす人がいなくなって、草ぼうぼうになっていました。
 ところが、去年の秋、そんな畑をかりたいと、宇佐見という男の人がやってきたのです。つぼみさんは、そのままにしておくのが気になっていましたので、こころよくかすことにしました。
 「こちらからおねがしたいほどです。おれいなんていりませんからね。」
 つぼみさんの言葉に、男の人は、うれしそうに帰っていききました。

10

5

去
さ
る
こ
ろ

と、ダイコンのサラダ、それから、ぶりのてり焼きになりました。てんつゆにも、焼き魚にも、たつぶりのダイコンおろしがつきました。
 「いやあ、あまくて、おいしいダイコンだねえ。今夜の料理は、どれもこれも、ほんと、おいしかった。」
 お客様のひょうばんが、あまりよかったので、よく日も、そのまたよく日も、ゆうすげ旅館のこんだては、ダイコンづくしになりました。
 むすめは、毎朝、とれたてのダイコンを持ってきて、せっせと、ダイコンの料理を作りました。
 さて、ダイコンづくしの料理がつづくようになったある日、仕事から帰ってきたお客さんが言いました。
 「近ごろ、耳がよくなくなったみたいなんです。小鳥の声や、動物の立てる音が、じつによく聞こえるんです。おかげで、工事であやうくこわすところだった小鳥の巣を見つけて、ほかにうつつしてやれましたよ。」

10

5

仕
つ
か
る
こ
ろ

夜

「あなた、宇佐見さんのむすめさんなの。せっかく来てくれたんだから、てつだつてもらいましょか。それにしても、みごとなダイコンだこと。ネズミダイコンなら聞いたことあるけど、ウサギダイコンっていうのもあるのね……。」
 むすめは、くるくるとよくはたらきました。そうじもせんたくも、さつさとして、まるで、むかしから、ゆうすげ旅館をてつだつてきたみたいなのです。
 午後になると、むすめは、ちよつと出かけて、たんぼの花とよもぎの葉っぱをつんできました。
 「今ばんでんぶらにしませんか。それから、ふるふきダイコンとダイコンのサラダ作りませんか。わたし、料理得意なんです。」
 こうして、そのばんのゆうすげ旅館のこんだては、たんぼの花とよもぎの葉っぱのてんぶらに、ゆずみそのふるふきダイコン

10

5





りじやたいへんだから。しゅうかくがおけると、まほうのきき目が、
なくなってしまうんです。」
「まほうのきき目って？」
「耳がよくなるまほうです。夜は、星の歌も聞こえるんですよ。」
(だから、お客さんもわたしも、きゆうに耳がよくなったんだ。)

つぼみさんは、大きくうなずきました。
「じゃあ、引き止めるわけにはいかないわねえ。」
つぼみさんが、これまでのお給料お給料のふくろを
わたそうとすると、むすめは、それを両手でお
しかえました。
「とんでもない。畑をかりているおれいす。」
それから、むすめは、おじぎをすると、にげ
るように帰っていききました。

10

5

両
リリア

それを聞くと、つぼみさんは、はっとしました。そういえば、つぼみ
さんの耳も、近ごろ、きゆうによくなくなった気がします。遠くの小鳥の声や、
小川のせせらぎが、しよっちゆう聞こえてくるのです。夜など、みんな
がねはずまって、あたりがしいんとすると、はるか遠い山の上をふく風
の音を、今どのあたりをふいているのか、聞き分けることができました。
またたく間に、二週間がすぎて、たいがいのお客さんたちは、仕事が
おわり、ゆうすげ旅館を引きあげていくことになりました。
お客さんが帰って、後かたづけがすむと、むすめはおずおずとエプロ
ンを外しました。

「それじゃあ、わたしも、そろそろおいとまします。」
「えっ、もう帰ってしまうの。」
つぼみさんがっかりすると、むすめは、下を向きました。
「畑のダイコンが、今、ちょうど、とり入れごろなんです。父さんひと

10

5



よく日、つぼみさんは町に出かけて、むすめのために花がらのエプロ
ンを買った、それを持って山の畑に出かけました。
(ここに来るの、何年ぶりかしら。)

畑について、つぼみさんの目
にとびこんできたのは、二ひき
のウサギでした。

(たいへん、ウサギが、畑をあ
らしているわ！)
でも、すぐに、つぼみさんは、
そうではないことに気がつきま
した。二ひきは、ダイコンをぬ
いているところだったので。
(そういうことだったの……。)

つぼみさんは、畑のダイコン
に見とれました。ああおとし
た葉っぱの下から、雪のよう
にまっ白な根が顔を出していま
す。
(山のよい空気と水で、ウサギ
さんたちが、たんせいこめて
育てたダイコンだもの、どん
なダイコンよりおいしいはず
だわ。)
つぼみさんは、エプロンのつ
つみを畑におき、こっそりと帰っ
ていききました。

10

5

よく朝、ゆうすげ旅館の台所の外には、一かかえほどのダイコンが
いてあり、こんな手紙が送られていました。

『すてきなエブロン、ありがとうございます。きのう、おかみさんが
畑に来たのが、足音で分かったのですが、父さんもわたしも、ウサギ
のすがたを見られるのが、何だかはずかしくて、知らんぷりしてしま
いました。いそがしくなったら、また、おてつだいにいきます。ウサ
ギの美月より』

てびき

● 場面のうつりかわりに気をつけて読み、あらすじをまとめましょう。

◆ 人物について考えよう

○ つばみさんや美月は、どんな人物だ
と思いますか。それは、どんななどこ
ろから分かりますか。次のようなこ
とを手がかりにして考えましょう。

- ・ つばみさんの行動や会話
- ・ 美月の行動や会話

○ この物語を最後まで読むと、じつは、
美月は人間ではなくて、ウサギで
あったことが分かります。物語のと
ちゆうにも、美月がウサギであるこ

とが分かるようなヒントがあります。
どんなヒントがあったか、さがして
みましょう。

(れい)

「色白のぼつちやりとしたむすめ」

(47ページ)

↓ウサギの毛の色と、毛のふわふ
わした感じを表している。



小学3年国語教科書 「ゆうすげ村の小さな旅館」(東京書籍)
2013年12月23日 ゆうすげ温泉旅館に宿泊した折に入手しました。